

いま、学校と子どもたちに何が求められているか

学力保障条例案に対する村上議員の質問



問 議会でも、教育関係者の間でも賛否が分かれている条例案を強引に採決するべきではない。議会が全会一致で賛成している少人数学級の推進を市としても独自に進めることこそ、学力向上につながる。

答 子どもの数が減り、釧路市では35人学級についてはほぼ達成されているのに、学力は低下している。学級人数だけではなく、教師の授業力、補修、家庭教育などに問題があり、市独自に少人数学級を推進するよう求めるつもりはない。

授業力を高めるためには教員の数を増やし、忙しくて手が回らないという学校の悩みを解決しなければなりません。県独自に少人数学級を推進した結果、秋田県は全国学力テストでトップになりました。愛知県犬山市の高学力も、市独自に大幅に教員を増やした結果です。30人学級を実現しましょう。

問 全国学力テストの結果の公表について。現在は、学校の個々の判断にまかされ、すべての学校が公開しないと決めている。条例が学校に圧力をかけるものでないなら、非公開の決定は今後も尊重されるべきではないのか。

答 これまでの非公開の決定を非難するものではない。しかし、今後については別の展開もありうる。学校運営委員会での協議も含め検討していくことになる。親の情報公開の要望について、たがをはめたり、制限をすることにはならない。

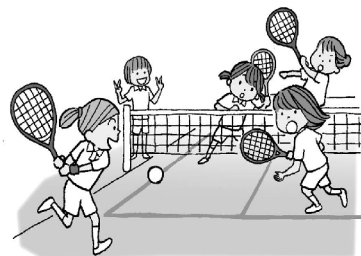
提案者は、この条例で、親の公開要求が高まり、学校もそれに抗しきれずに公開が進むことを期待しているようです。公開を求めるものではないと言いつつ、その本音が見え隠れします。



問 この条例では、基礎学力は数値で測れ、読み書き計算とされているが、これではここに特化した方向に教育内容をゆがめることになりかねない。多くの専門家もその定義に異論を表明している。条例でこうした定義をするべきではなく、研究者、関係者を議会が

答 専門家も様々だ。議論はかみ合わない。専門家の招致は客観性の担保にならず、混乱を招くだけだ。

専門家の意見を聴くことが混乱の原因になるのではなく、条例の規定自体が特異なもので、現に教育現場に混乱を招いていると、厳しく指摘しました。



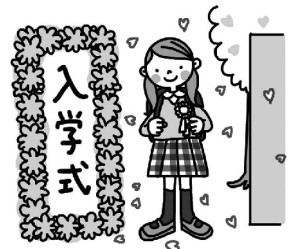
定例議会のたびに、住民要望の実現と住民目線から行政をチェックするため本会議で欠かさず一般質問・質疑を行っています。



日本共産党 村上かずしげ

提案代表者は議会のなかで全国学力テストの学校別順位の公表を繰り返して質問してきた議員です。文科省は教育委員会が一律に公開することには反対しており、結果として公表は過度の競争を強いることになりそうです。順位にばかり目を奪われ、「点数がとれる」方向に教育内容がねじ曲がる心配もあります。公表している自治体中では、下位に位置する学校から転校が続出するなどの問題も生まれています。

12月議会に議員提案で「子どもたちの基礎学力の習得を保障するための教育の推進に関する条例」案が提案され、賛成多数で可決されました。基礎学力の向上に絞った条例を可決したのは、極めて異例のことです。子どもたちにとってほしいと思うことは当然です。しかし、今回の条例にはたくさん問題点があり、共産党議員団は反対しました。



村上かずしげ通信 2013年 1月 13日

発行 共産党市議団 電話 23-5212

この通信は政務調査費で作成しました。